

コラム谷戸の風 第4集

奈良ばいの由来について迫る！（表六魂）



2016年夏に「奈良ばい」の Web 編集を担当する事になり「ドメイン名」「サイト名」を決める際に、「結の里」では無く「奈良ばい」へ確定する事になりました。

それは、この団体が NPO 法人化する前のボランティア団体としての名称や、実際の活動地の「字名」で有る事が大きな理由となりました。

Web ページを開設する為の「検討」→「編集」委員へと展開したのですが、会議の冒頭、30分位は、この「奈良ばい」の由来について、議論が深まりました。

その議論と集めた資料から、今回纏めてみたいと思います。

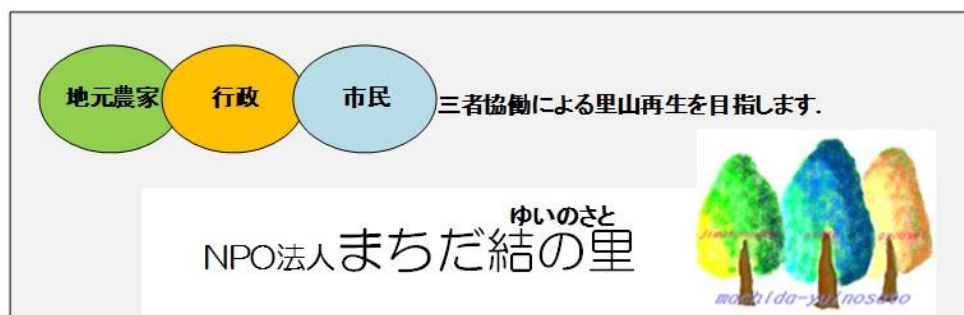
1. 「奈良ばい」と「奈良ばい谷戸」

地番表示上は「町田市小野路町字奈良ばい」が、正式名称です。

しかし、2006年に、前身のボランティア団体の活動がスタートした際に、「奈良ばい谷戸」という「谷戸」という言葉が入っており、現在では、行政の Web ページでの表記なども「奈良ばい谷戸」が多く記載されています。

「谷戸」を入れた経緯は、不明ですが、必然的な事で有ったようです。

というのも「奈良ばい」は耕作放棄地が中心で、道路にも面しておらず、人目に付きにくい所に有った為、近在に「谷戸」が多く展開される地区で有る事から、「奈良ばい谷戸」として記載される事が多くなったと推察します。



2. 「奈良」と「檜」

地名の対称性？（こんな用語が在るかは不明？）と言う事が在ると思います、例えば町田市には「相原」が在りますが、川を挟んだ相模原市にも続いて「相原」が在ります。

地名としては残っていないのですが、「奈良ばい」から2km程離れていますが、市を隔てた「多摩市」には、「奈良原公園」というテニスコートを備えた公園施設が残っています。こちらは、現在は「鶴牧」という地名に統一されていますが、古い資料（明治15年発行の東京府の資料）を見ると「檜原」と記載されています。

ただ、その地区は、多摩ニュータウン開発前は町田市小野路町の中に入っていました、その土地との関連も一つなのかと想像が巡ります。

同じ資料では「奈良ばい」は「檜バシ」と記載されています。

識字率の低い時代だった事で誤字等も考えられますが、「バシ」という記載はなぜ起こるのでしょうか？それは、いったん横に置きます。



「奈良」と「檜」について、考えてみますと、

- ・「コナラ」が多く茂っている所だから
- ・現在の横浜市青葉区の「奈良町（奈良北団地のある）」との関連があるのか？（鎌倉～室町時代は、地域の豪族小山田氏が源流から鶴見川一帯を現在の横浜市の中部まで統治していたから？）
- ・漢字を当てているだけか？

明確な証拠資料をとらえていませんが、上記の時代で町田市内では最初に人が村を形成していたのは、小山田氏が統治していた地区（田の付く、小山田、野津田など川沿いの地域）の様です、小山田氏が広大な地域をおさめられたのは、米作りによって得られていた「資力」による物だと思います、その事と「奈良ばい」

地元農家 行政 市民 三者協働による里山再生を目指します。

ゆいのさと
NPO法人 まちだ結の里

machida-yuinosewo

の地名由来との係わりの明確な資料が在りませんが、様々な想像が膨らみます。また、「ならず」から来た地名とも考えられます、地名研究で「ナラ」は「緩斜地、平地」を意味するそうです、「奈良ばい」が平地か？というところもわかりませんが。



3. 「ばい」「べえい」「ばら」「ばし」

編集委員のある方が言うには、地元の方の発音は「ならべえい」というそうです。

「べえい」は「ばい」が「横浜市郊外一町田方面」の方言になった物と思いますが、「原っぱ」を表す「ばら:はら」が方言になった物だと展開される方も居ます。

では、横に置いた「ばし」は何でしょうか？地区内に橋も無いですが、小山田との境で有る事は確かです、「端」という意味でしょうか？

「ばい」は「杯」を意味する事なのか？良く判りません。

また、昔の戦に出る前にこの地区に隊列を組まされて「ここにならべえい」を言われたからだとする説もありますが、定かな物は何一つ無いそうです。

町内で資料館も展開されている方に、講演会の際、編集委員の一人の方が「奈良ばい」の由来について、質問したそうですが

「明確に証明される物は何も残っていない、それを探したり、想像したりすることで理解を深めたいという欲求が生まれる、それが知的好奇心をくすぐり面白いのではないですか？」と。



これが答えであり、この編集委員会での議論が盛り上がった理由であるように思えます。

2017.3.11 文責:表六魂

